

平成23年9月の解説（週間天気予報）

【9の天候状況】

月のはじめは、台風第12号や前線の影響により、北日本から西日本にかけて曇りや雨の日が続きました。また、台風の影響により、紀伊半島を中心に記録的な大雨となり、甚大な災害が発生しました。沖縄・奄美では高気圧に覆われて概ね晴れました。その後は月の中頃にかけて、東日本以西では高気圧に覆われ晴れて気温が高くなり、東・西日本では厳しい残暑となりました。北日本では、月の中頃にかけて前線や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多くなりましたが、暖かく湿った空気の影響により気温が高くなりました。月の中頃から下旬はじめにかけては、日本海から南下した前線と南大東島の西海上に停滞した台風第15号の影響によって、沖縄・奄美と西日本で曇りや雨の日が多くなり、その後は台風第15号が東海地方に上陸して関東甲信地方、東北地方を通過したため、西日本から北日本の広い範囲で記録的な大雨や暴風となりました。月の終わりは、北日本から西日本にかけて移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、寒気の影響により全国的に気温が平年を下回る日が多くなりました。沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、全国的に高く、北・東日本では平年を1℃以上、上回りました。月降水量は、北日本、東日本の日本海側、西日本の太平洋側でかなり多くなりました。東日本の太平洋側、西日本の日本海側では多く、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、東日本でかなり多く、西日本の日本海側で多くなりました。西日本の太平洋側、沖縄・奄美では平年並で、北日本では少なくなりました。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より12ポイント高い77%でした。地方毎の適中率では北日本と東日本、近畿地方と中国地方で10～20ポイント高くなりました。九州南部地方では11ポイント低くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値程度か例年値より小さい地方が多く、近畿地方では例年値より0.5℃小さくなり、全国平均では2.2℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値程度の地方が多く、全国平均では例年値と同じ2.0℃になりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

晩秋から冬にかけては日本の西に高気圧、東には低気圧が位置する西高東低の冬型の気圧配置になることが多くなります。冬型の気圧配置は低気圧が発達しながら日本付近を通過した後に現れやすく、冷たい北よりの風が吹いて気温が急激に下がり、日本海側の地方では雨が降り、気温によっては雪やみぞれとなり、太平洋側の地方では晴れるところが多くなります。週間天気予報による向こう一週間の天気や気温の予報を利用して、雪への備えや健康管理などに注意して下さい。